

ギャングスタラップの和訳

(The Japanese Interpretation of American Gangster Rap)

エリカ・ブルックス

Erika Brooks

82-373 Structure of Japanese Language

Abstract:

Cuss words are an interesting part of any language. However, when I first started learning Japanese I was surprised to learn that it doesn't have as many cuss words as English or even other east asian languages that have a similar emphasis on respect like Korean or Mandarin. Curious about if Japanese was truly that much less offensive than English and how such a language would translate a genre of music I frequently listen to, gangster rap, I decided to take advantage of a linguistic comparison project assigned in Professor Yasufumi Iwasaki's "Structure of Japanese Language" class to investigate just that. With the Japanese Yakuza being somewhat similar to American Gangsters, and this similarity leading me to suspect that perhaps members of the Yakuza or other Japanese criminals may communicate with a roughness similar to American gang members my overarching question evolved into this—Which has a stronger influence: a country's culture or a criminal lifestyle?

1. はじめに

私のトピックはギャングスタラップの和訳だ。選んだ理由は日本のギャングスタラップの通訳が面白いと思うった。日本のヤクザとアメリカのギャングスタはちょっと似ている。でも、育た国の文化は違うだ。犯罪者のライフスタイルか国文化、どちらの方が強いと見たい。それから、アメリカと日本の荒い言葉を比較したい。発表ではケンドリックマーの「Blow My High」を見る。ケンドリックラマーは私の一番好きなラッパーだ。そして、私たちは同じコンプトンに育った。人たちは大抵英語の方が荒いと思うから英語のラップを選んだ。犯罪者のライフスタイルの方が強かったら和訳も英語の荒いレベルが同じはずだと思う。その質問を調べながら日英語の規範的な比較もする。今学期「Monane and Rogers」や「Hinds」の理論文書を読んだ。日英語の規範的な比較のためにその理論を使う。比較曲出典として、ユーチューブには「Blow My High」のミュージックビデオがある。和訳した出典もユーチューブだ。

2. 日英語比較

データ 1

英語	日本語
<u>If he up, watch him fall</u> , I can't f**k with ya'll	<u>彼が上がれば落ちていくのも見るんだ</u> 、お前らとは付(つ)き合いきれないよ。

データ 2

英語	日本語
<u>All my car got leather and wood</u> , <u>in my hood we call it buck</u> .	<u>俺の車は全て皮(かわ)と木</u> でできてる。 <u>地元(じもと)</u> じゃ俺たちはそれを鹿(しか)と呼ぶんだ。

データ 3

英語	日本語
(P*ssy Ass H*e N*gg*s) I can't f**k with ya'll	(ク*ビ*チヤ*) 一緒にはいられないな

データ 4

英語	日本語
And <u>I'll enclose it with a kiss</u>	<u>キスでどふしておいたわ</u>

データ 5

英語	日本語
<u>Smoking out, pouring up, keep that lean up in my cup.</u>	<u>煙を吐いて、注ぐ、コップをリーンでいっぱいにするんだ。</u>

「Blow My High」はラップ産業にいる怪しい人や艱難について。英語で “If he up, watch him fall, I can't f**ck with ya'll” と書いた。日本語で翻訳は「彼が上がれば落ちていくのも見るんだ、お前らとは付(つ)き合いきれないよ」と書いた。独自の英語は俗語なので和訳には全部意味を見えない。例えば、「come up」が略して「up」の意味は盛況がある時だ。しかも、「can't/don't f**ck with __」の俗語の意味は「～が好きじゃない」か「～と付き合いがない」と思う。使った「ya'll」は「みんな」か「こいつ」に似て意味がある。この言葉は家族や親友や目下の人と使う。「ya'll」だけがあまり荒いはいけど、このコンテクストには荒いになる。ケンドリックは「don't f**ck with __」と言うし、尊重しない人に言ったから。その上、英語文の使った「f**ck」はののしり言葉。日本語文には同じく言葉がない。

同然な英語文のアグレッシブ意味を見るために、「～んだ」や「お前ら」や「よ」や何気ない言葉を使う。文法違いについて、日本語には省略言語を使った。でも、英語は非省略言語だ。最初例では英語の文は二回 “he”か“him”を使った。だが日本語の文は一回「彼」を使いました。二番目例は英語で「All my car got leather and wood, in my hood we call it buck.」。英語の「hood」は貧困な所へ住んでいる黒人やメキシコ人が使った俗語だ。和訳は「俺の車は全て皮(かわ)と木でできてる、地元(じもと)じゃ俺たちはそれを鹿(しか)と呼ぶんだ」。俗語について、日本語文には地元がある。その言葉をあまり聞こえなて意味合いが分からない。でも、面白い選択と思う。文法違いについて、英語にはスルを使った。しかし日本語にはナルを使った。独自の英語には「car got leather and wood」と言う。和訳には「got」がない。むしろ、「でできてる」の方を使う。

三番目の例は英語で、「(P*ssy Ass H*e N*gg*s) I can't f**k with y'all」。そして、日本語で「(ク*ビ*チヤ*)一緒にはいられないな」。この例は犯罪者のライフスタイルと国文化について。両方文には荒い言葉かなのしり言葉がある。どちらの方が強いは自分の意見によって。私の意見は英語の方がちょっと強い。理由は英語の終わったに「f**k」を使った。そして、日本語文の前には英語の「ビッチ」を使う。犯罪者のライフスタイルの方が強えれば和訳は英語からのしり言葉を借りてなくてもいいと思う。けれども和訳の英語に同じくになるためにすることが面白いと思う。例えば、和訳には「f**k」がないから、英語にない「な」の終助詞を使う。

確かに、日本語は英語にないの終助詞を使うことが面白いと思う。次の例にもこの事を見る。英語で“And I'll enclose it with a kiss”と言いました。でも日本語で「キスでどふしておいたわ」と言いました。最も男の人が「Blow My High」をラップする。でも、ボーイフレンドがいる女の人はこの例を歌うから和訳は「わ」を使う。この文化の違いめっちゃがっこいいと思う。例には省略言語と非省略言語の使う方を見られる。英語は非省略言語だが日本語は省略言語だ。それに、英語は人間中心だけど日本語は状況中心である。この例について英語ではキスした人がお大事である。でも日本語ではキスの方が大切だ。Hinds の第3章には日英語の人間中心と状況中心違いを論じる。Hindsの意見は「英語話者は是隊人の話す事をしなきゃ。でも、日本語には人の話す事をしない方がいい」(Hinds, 27)。

最後の例は、「Smoking out, pourin up, keep that lean up in my cup.」。そして、日本語で「煙を吐いて、注ぐ、コップをリーンでいっぱいにするんだ」。最初にこの例は日英語の人間中心と状況中心違いが見える。理由は英語の「keep that lean up in my cup.」は直に人間が見える。そして、日本語文の「コップをリーンでいっぱいにするんだ」には人間は明白じゃないと思う。でも、これは間違いだ。今私の意見はこの例には日英語の類似を見る。そして、日英語の存在焦点と所有焦点の違いも見ると。普通に英語文には絶対主語がある。でも、この例には日本語も英語はちょっと省略言語のパターンを従う。Hinds の第8章には英語の珍しい主語がない構造を論じる。存在焦点と所有焦点の違いについて、英語は「my cup」と言うが日本語は「コップ」とだけ言う。Monane and Rogers (1977:132)について、理由は日本語は存在焦点が英語は所有焦点だ。存在焦点は状況焦点と認知的に適合する。そして、所有焦点は人間焦点と認知的に適合する。

3. 終わりに

例によると国文化の方が犯罪者のライフスタイルより強い。日英語文法について、アメリカでは銘々人は大切から非省略言語とかpronounsとか人間中心言葉をよく使う。しかし、日本では一緒に皆さんか世界方が大切から少しpronounsとか多くないarticlesとか非省略言語とか状況中心言葉を使います。荒い言葉について、アメリカの方が多くて荒いと思う。日本人は無礼になりたくないから英語と同じく「F**ck」や「B*tch」がない。代わりに、丁寧じゃない言葉の「お前ら」と強調するの「～んだ」を使って英語のののしり言葉を借りた。理由は日本には尊敬は大切だ。西洋ではこの言葉が育てられることができた。でも世界中で人が完ぺきじゃない。韓国も中国も日本の文化が同じく。しかし韓国と中国には西洋同じく色々なののしり言葉があるんだ。どうして日本だけはこの言葉があまりない。実の理由を見つければもっと研究しなきゃ。

データの出典

- Lamar, Kendrick. “Blow My High (Members Only).” Section.80, Top Dog Entertainment, 2011, Track [14.www.youtube.com/watch?v=1bZCLEyAx6c](http://www.youtube.com/watch?v=1bZCLEyAx6c)
- Lamar, Kendrick. “Blow My High (Members Only).” Section.80, Eijin, Top Dog Entertainment, 2011, Track www.youtube.com/watch?v=t0AW7LWYxM4
- Jisho.com

参考文献

- Hinds, John. 1986. Chapter 7 States Rather than Actions, 67. Tokyo: Kurosio Publishers.
- Hinds, John. 1986. Chapter 3 Situation Focus, 22-31. Tokyo: Kurosio Publishers.
- Monane, Tazuko A. and Lawrence W. Rogers. 1977. Cognitive features of Japanese Language and culture and their implications for language teaching. *Proceedings of the 2nd HATJ-UH Conference on Japanese Language and Linguistics*, 129-134